ISSN 2186-5647

5-36

騎楼などの歩行空間に着目した地域空間の考察

－台北市におけるパブリックスペースの探求その３－

日大生産工（院）○小暮　亮太　　日大生産工（院）豊留　佑依
日大生産工（院）今村　昂広　　日大生産工　篠崎　健一

1. はじめに

本稿では、平成26年度中國科技大學における海外インターンシップにより得た知見を記す。本実習は、台湾におけるパブリックスペースの特徴について、調査し考察することを目的として行った。

実習期間中の、8 月 29 日に、フィールドワークとして、台北市内のとある１区画を、半日かけ調査した。そして、どのような場所にパブリックスペースとプライベートスペースがあるのかを、写真を撮り、それを元に考察した。そこで得られたデータを元に、台北市における歩行空間の特徴について考える。

2. 1 騎楼について

騎楼とは、台湾で多く見られる歩行空間である。建物の道路に面する１階部分を、人が通るための半屋外にし、それが連続することで、屋根を持つ歩行空間が生まれる。降水量が多く、太陽の日差しがとても強い台湾において、騎楼は街を歩く人々にとって快適な空間である。

図 1. 騎楼の様子

2. 2. 台北市の街路について

東西、南北の２方向に大通りが通り、それに面した建物の１階部分に騎楼がある。大通り沿いの建物の１階には、商店が多く連なり、その建物の２階以上の階と、細い路地を入った地域にある建物に、住戸がある。道路にも、車道、歩道、騎楼の３つの空間があり、バイクや自転車の交通量の多い台北市内において、騎楼は歩行者にとって、安全面でも有効である。

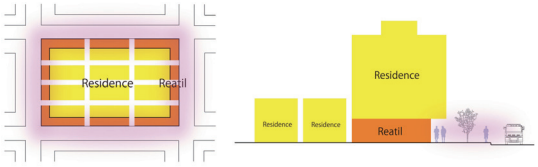
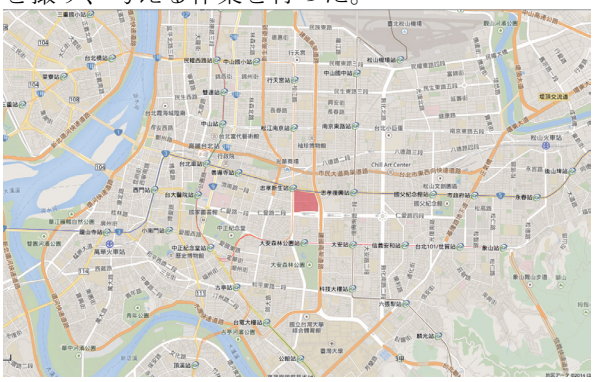


図 2. 街路の構造

3. フィールドワーク

調査をした敷地は、台北市大安区にある地域である。MRT の忠孝新生（ちゅうこうしんせい）駅を出ると目の前にある区画である。広さは 400m×400m=160000 ㎡程度で、四方を大通りに囲われ、区画内部の路地を進むと、住宅が密集している。台北市の一般的な街の構成をしているこの区画において、その空間がパブリックかプライベートか、写真を撮り、考える作業を行った。



地図データ ©2014 Google, ZENRIN

図 3. 敷地図

3. 1. 敷地内の歩行空間について

下図に示すように、この区画内の大通りに面する多く建物には、騎楼があり、また、騎楼が無い通りでも、騎楼と連続する歩行空間がほとんどの部分で確保されていた。気楼に面する部分は、ほとんどが商店であり、住宅は南東にあるマンション以外ほぼ無かった。路地に面する部分には住宅が多いが、少し大きな路地には小さなオフィスや、商店、カフェなどもあり、賑わいのある通りもあった。

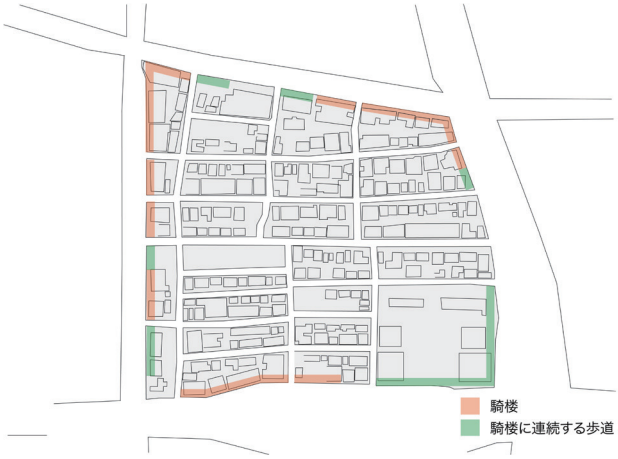


図 4. 騎楼と歩道

The study of re1gional space focsed on walking space such as Qilou
The Pursuit of the Public Space in Taipei Part3
Ryota KOGURE, Yui TOYOTOME, Takahiro IMAMURA and Kenichi SHINOZAKI

4. 写真による考察

写真①　PUBRIC
騎楼の中にあるベンチと植栽の写真。日陰の心地よい空間に人々が自由に座れる。

写真②　PUBRIC
騎楼ではないが、木々が日差しを遮り、気持ちの良い歩行空間の写真である。写真左に写る建物に騎楼はないが、植栽を植え、歩行者に考慮している。

写真③　PUBRIC
レストランの前の歩行空間の写真である。屋根はないが、騎楼と連続する歩行空間があり、ベンチに人々が腰をかけて寛げる。

写真④　PUBRIC
駅前の広場の写真である。大きく開けた空間があり、木の下で人々が腰お下ろして寛いでいる。

写真⑤　PUBRIC
角地に立つ学校のエントランスの写真である。一般の人々も通り抜けられるようになっており、大通りの騎楼から自然な動線で中へ入れる。また、路地側の入り口には、街に開けた空間があった。

写真⑥　PRIVATE
角地に立つ高級マンションのエントランス部分の写真である。大きな歩行空間だが常にガードマンがいて、人々はここで寛ぐことができない。

写真⑦　PRIVATE
オフィスビルのエントランスの写真である。階段が騎楼の動線を妨げるようにつくられており、自由に出入りできる空間ではなかった。

写真⑧　PRIVATE
騎楼と同じような空間の半屋外に、設置されたカフェの席の写真である。街に開けてはいるが、料金を払わなくては入れない私的な空間である。

写真⑨　PRIVATE
路地に面する住宅の写真である。人通りが少なく、住戸の前には、車やバイクが並び、住人以外の人々をあまり寄せ付けない印象であった。

写真⑩　PRIVATE
路地には路上にも木が生えていたが、車やバイクが並び、大通りとは違い、人々が寛ぐ風景は見られなかった。

4.1. 騎楼がつくる歩行空間

写真①には、騎楼における空間が写されている。フィールドワークを行った時の気温は、30℃を超える暑さであったが、騎楼の中は涼しく、ベンチで休む人々が見られ、とても歩行者に配慮された空間であった。しかし、自転車やバイクが駐輪されるなど、歩行を妨げるようなものもいくつかあった。

4.2. 騎楼と連続する歩行空間

写真②～④は騎楼ではないが、歩行者のための空間と、人々が寛げる空間が確認できた。また、写真②、③のように植栽を植えるなどにより、日差しを遮るなど、居心地の良い空間であったが、日中の日差しが当たる時間帯の写真③のような歩道空間は、とても日差しが強く、人々が寛ぐ姿は見られなかった。写真⑤と⑦を比較すると、写真⑦は騎楼から連続する動線と交差するように階段が設けられており、歩行者の動線を妨げていた。また、写真⑤は通り抜けができ、街に対して開けている印象であったが、写真⑦は建物の利用者以外は、寄せ付けない印象であった。

4.3. 建物が歩行空間に与える影響

写真⑥の高級マンションのエントランスには、常にガードマンが見張っており、一般の人々が、そこに留まりにくくしている印象であった。きれいな装飾や噴水があり、このマンションの住民にとっては居心地が良い空間かもしれない。しかし、エントランス付近の歩道は、騎楼とは異質の空間であり、この区画の大通り沿いの歩道において、連続する歩行空間としての人々の居場所が奪われている。

4.4. 路地空間

路地に入ると、人通りが少なく、住宅が立ち並び、家の前には、車やバイクが無数に止められていて、住人以外を寄せ付けない雰囲気であった。樹々が路上に生えているが、大通りとは違い、木を眺める人や、木陰で寛いでいる人は居なかった。写真⑧のように、騎楼とは違い、小さな歩道の延長線上にカフェのテラスなどがあり、歩行者のための空間というよりも、プライベートな空間が、街路に溢れ出していた。

謝辞

今回の実習において、中國科技大學の吳東昇先生、陳主惠先生、徐淵靜先生、周世璋先生、孫啓榕先生、陳玉燕先生、顔敏捷先生に台北市内を案内していただきました。また、中国科技大学にてレクチャーや、資料をご提供いただきました。また、張宸瑋君、魏宏展君、張美波さん、沈芸安さん、羅新琨君、林檻堽君には、通訳として同行していただきました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

1) SHU CHANG, CHUN-HSIUNG『TAIPEI UNVEILED』Taipei City Urban Regeneration Office(2013)

2) 林 政霆 台湾騎楼の<辺街>空間における領域形成